



交換留学が始まりました

2018年1月、国際地域学部2年生（1期生）の交換留学が始まりました。今期は、世界各国にある学術交流協定校へ向けて、15名の学生が出発する予定です。

本学部では、グローバルな視点から入る学び方（グローバルアプローチ）と地方創生の視点から入る学び方（地域創生アプローチ）の2つのアプローチを用意しています。2年次にいずれかのアプローチを選択することになっており、グローバルアプローチを

選択した学生は、1学期間または2学期間の海外留学が必修となります。交換留学の条件として学部独自に、GPA2.5以上の成績を収めることとTOEFLスコア530以上獲得することを課しています。地域創生アプローチにおいても、1学期間の海外留学を推奨しており、交換留学制度を利用する学生がいます。

今号では、留学に向けて語学学習に奮闘する学生たちの様子や既に留学先で生活を始めている学生たちの生の声をお届けします。

語学学習における学生の取組

国際地域学部の学生は他学部の学生に比べ、大学の授業時間以外での学修時間が長い傾向にあります。各科目のレポート課題の多さや主体的な学びを促進するプログラムが主流であることに加え、留学のた

めの語学学習にも時間を割かなければならないからです。そこで、学生のTOEFLの勉強方法や学生主体で立ち上げられたUPASS（学修サポートセンター）の取組を行う学生の声をご紹介します。



わたしの

『 TOEFL 奮闘記 』

国際地域学部 2年 Aさん（グローバルアプローチ）

交換留学制度を利用するためには、TOEFLスコア530が必要です。入学してすぐに、私は初めてのTOEFLを受験しました。私が苦戦したのは2年生になってからです。4月のスコアは527。その後6月、8月と挑戦し、どちらも527でした。あと一歩スコアがとどかない状況が4か月も続いたのです。しかし、10月にはスコアが落ち、勉強方法を変えることにしました。大学のLDC（語学開発センター）の教

材を利用して、最も苦手な“文法”に力を入れました。LDCには個人ブースがあり、とても集中することができました。週に4日間、1か月以上通い、12月の試験に臨みました。しかし、結果は振わずスコアはさらに下がってしまったのです。

当時は、本当に落ち込みました。来期の交換留学の申請のために最後のチャンスとなる1月のTOEFL試験に向けて、「気持ちを切り替えなければならない」

という思いと、「これ以上点数が伸びないのではないか」という不安が混ざり、何も手につきませんでした。ところが、年末の帰省を挟んで臨んだ1月のTOEFL試験の結果は、スコア 550 以上！今までの経験が嘘のような結果が出ました。

思い返してみれば、それまではスコアへのプレッシャーから自分に負担をかけていたのだと思います。もちろん、一生懸命に勉強したからこそ今回の結果が出たとも考えていますが、重く考えずにリラックスして臨むことが大事だと感じました。私は帰省したことで心が大分リラックスしたのだと思います。

TOEFL のスコアはクリアできましたが、これから留学先で何をどれくらい頑張れるかがより重要だと思います。自分が何をしたいのかを再確認しながら準備を進めていきたいと思っています。



私と共に戦った教材たち

『 UPASS 学生主体の学修サポートセンターについて 』

国際地域学部 2年 Yさん (グローバルアプローチ)

UPASS (University Peer Academic Support Services) は学生主体の学修サポートセンターです。現在 13 人のチューターが在籍しており、留学生向けの日本語学修サポートと国際地域学部 1 年生に向けての英語学習サポートを中心に活動しています。留学生向けのサポートでは日本語の会話テストやエッセイの添削を行い、日本人学生にはライティングや TOEFL の学修支援を行っています。UPASS は開始

してまだ三ヶ月のセンターですが、他大学への訪問やチューターのトレーニングを重ねることでより良い学習支援センターとして機能できることを目指しています。国際地域学部生の利用数の少なさが現在の課題ですが来年度からはライティングや TOEFL 対策講座などの授業と連携し、より利用しやすく実用的なセンターにしたいと思っています。



UPASS チュータリングの様子



明桜大学言語学習センター (LLC) の視察



留学先より愛をこめて



福井大学国際地域学部の交換留学生として第1期生となる学生が、1月から続々と留学先の国々へ出発しています。学生たちは、昨年の8月から勉強の合間を縫って懸命に留学準備を進めてきました。

特に1月出発のメンバーは、出席できない授業に対する追加課題に追われながら出発予定日ギリギリま

でレポートに取りこんでいました。また、ビザが取れず焦る学生もいたため、正直「間に合うのか」と心配しました。しかし、たくさんの方々から支援をいただき、現在は、順調に現地入りしています。

留学して約1か月。現地で新たな生活を送りながら奮闘する学生の声をお聴き下さい。



国際地域学部 2年 Eさん（地域創生アプローチ）

留学先に来てもうすぐ1ヶ月が経とうとしています。毎日驚きと新たな発見があり、新鮮な気持ちで生活を送っています。

日本での準備はギリギリ間に合ったといってもよいと思います。他の国へ留学する学生と比べ早めの出発にもかかわらず、ビザや飛行機のチケットをなかなか取ることができず、出発3日前にようやく揃えることができました。正直心の中は不安と焦りでいっぱいでした。

現地に着いてからは、SIMカードを買ったり、住むアパートを探したりしました。移動する中で、バイクの多さには本当に驚きました。最初道路を渡るのが怖くてなかなか歩き出せませんでした。今は少し慣れてきて、一人でも渡れるようになりました。

この1ヶ月で、日本では体験したことのない多くのことを経験できています。約半年間の留学で様々なことに挑戦していきたいと思います。



バイクに乗っていた時の道路の状況



夜観光した時に撮った中央郵便局

国際地域学部 2年 Sさん (グローバルアプローチ)

留学先の大学は施設が非常に充実しており、生徒も先生もみな英語を流暢に話せるため、本当に留学生活を送りやすい環境だなあと感じます。今期私は、カジノ産業とホスピタリティに関するマネジメントや国際貿易マネジメントの授業などを履修していて、特にグループや授業でのケーススタディを通して日々新しい発見があり、日本についても考える機会も多く、刺激を受ける日々です。ビジネスを学ぶ場所としてこの国を留学先に選んでよかったなあと実感しています。現地で出会った学生は、寮での活動や授業などで喋りかけてくれたり、いろいろな事を教えてくれたりします。日本についてたくさん知っ

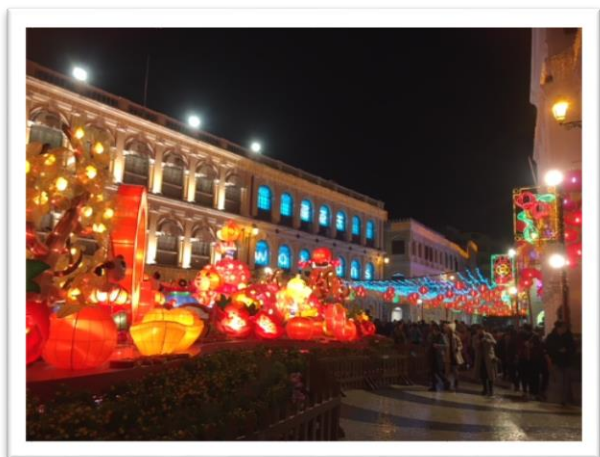
ている人も多く、本当に優しいなあと感じます。これから1年間まだまだ様々なことに挑戦していきたいと思います。



国際地域学部 2年 Oさん (グローバルアプローチ)

留学して1か月が経ちました。私は現在、留学先の大学で人文学部英語学科に所属しています。留学生は、学部に関係なく様々な分野の授業を取ること

ができ、現在は Chinese for Non-Native Speakers, Western Philosophy: An Introduction, New Media, Principle of Marketing, Gambling and Crimes の5つの授業を履修しています。授業は全て英語なので授業の前にしっかり予習しなければ十分に授業内容を理解できないので大変です。また、他の学生はほとんど地元出身や中国出身で英語学科ではないにも関わらず授業中に急に意見を求められても英語で流暢に発言している事は見習うべき点だと思いました。また、他の学生とより親しくなるために中国語も話せるようになりたいと考えています。残りの4か月間も留学生生活を頑張っていきたいです。



GCS Newsletter No.3 2018.02.19
編集:福井大学国際地域学部: Newsletter編集委員会
〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9-1 TEL 0776-27-9936